



ワークショップ「鹿児島」

■日時:2011年2月5(土) 13時00分～16時00分

■場所:鹿児島県教育委員会総合教育センター

鹿児島県教育委員会総合教育センターと共催で、経済教育ワークショップ(鹿児島)を開催した。県下の中学校教諭など18名が参加し、モデル授業実施と、新学習指導要領をふまえた「経済学習」の提案をした。

【プログラム】

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～14:15 講演:中学校公民「教科書」を読み解く

(同志社大学経済学部 篠原総一)

14:15～15:35 教材提案:「住宅メーカー 職場シミュレーション」

(東京都目黒区立目黒中央中学校 三枝利多)

15:35～15:55 討論:ゲーム教材の使い方

(弘前大学教育学部 猪瀬武則)

15:55～16:00 閉会挨拶

【ワークショップ概要】

初めに、篠原代表が、「公民(経済)の教え方『仕組み』学習の提案」と題して講演。中学校社会科教科書の問題点を指摘されながら、現状の経済学習の経済的見方を展開された。中学校社会科での経済教育の目標を、「しくみ理解」と「機能しない理由とその対処」を学ぶこととし、その基準に新学習指導要領の主要概念「効率と公正」があるとした。効率概念を「無駄のないこと」にしぼり、構成の扱い方に触れた。また、学習内容として、経済概念を解説した。「分業と交換」では、前者が企業、交換を市場とし、これによって、教科書のあらゆる部分に配置される経済単元は、驚くほど容易に、しくみ理解が促進されるとした。時間が迫っていたので十分には展開果たせなかったものの、金融について、間接金融と信用の高い企業の資金調達としての直接金融などの説明がなされた。

後半は、三枝教諭の「中学校における金融・経済授業の進め方」であり、これまでの経験に基づく日常的な中学校社会科公民的分野の授業展開事例と「住宅メーカー 職場シミュレーション」の導入部分の模擬授業を、参加者対象に展開された。具体的には、「無人島漂着シミュレーション」であり、漂着してから、なにをどうするかを提案をグループごとに話し合わせ提案させた。特に、漂着後、どうするか。続いて、新たな住人の発見から、(1)漁業が出来る住民との遭遇、(2)パパイアが採れる住民との遭遇、(3)言葉の壁はあるが友好的な島民との遭遇、への対応を参加者から提起して頂いた。ユニークな提案が、数多く出されたが、最終的には交換・分業・交易の確認をすることが重要で基本的には、それらをまとめることがなされた。時間の制約上、「職場シミュレーション」の展開は出来なかった。

最後に、猪瀬が、「ゲーム教材の使い方」として、実施上の課題を参加者と共に討論して、終了した。

(文責:猪瀬武則)